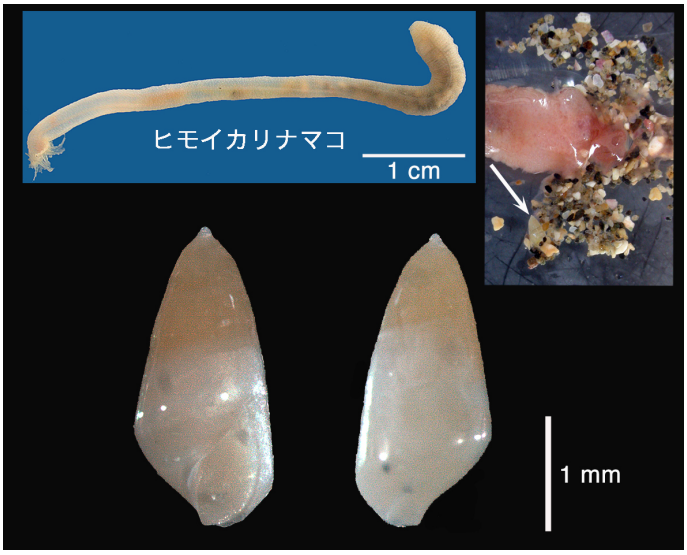
# ヒモイカリナマコツマミガイ　*Hypermastus lacteus* (A.Adams)

## 【選定理由】

本種は、内湾域の砂礫干潟の底質中に潜って生息するヒモイカリナマコ（棘皮動物）の体内に内部寄生する微小な巻貝。県内でも干潟という生息環境自体が護岸工事や埋め立てで著しく減少しているので、本種のホスト（宿主）であるヒモイカリナマコの生息地、個体数とも著しく減少したと考えられる。ヒモイカリナマコツマミガイがヒモイカリナマコに寄生している割合は5%以下で、結果として県内では極めて希少な貝類である。渥美半島北側の三河湾の1地点（愛知県，2005）でのみ生息が確認された。2006年、2007年、2015 年の現地調査でもかろうじて生息を確認した。絶滅の可能性が非常に高い種であると評価された。



田原市福江漁港北側干潟, 2007 年 6 月 2 日，木村昭一採集

## 【形　態】

殻長約 5 mm で殻は半透明白色で殻質は薄い。殻頂部はつまみ状に突出する。殻表は平滑で強い光沢がある。

## 【分布の概要】

【県内の分布】

渥美半島北側の 1 地点でのみ生息が確認されている。生息地点数、個体数とも非常に少ない。

【世界及び国内の分布】

日本固有種（現在日本以外の分布記録はない）。三浦半島以南、三河湾、志摩半島（三重県）、田辺湾、瀬戸内海、四国東岸に分布する（福田・木村, 2012）。

## 【生息地の環境／生態的特性】

**【選定理由】**の項参照。

## 【現在の生息状況／減少の要因】

上述したような干潟の環境は破壊されているので、本種の生息場所、個体数とも減少したと考えられる。

## 【保全上の留意点】

上述の生息地は、アサリの母貝の保護のため地元漁協によって管理され、立ち入りが制限されており、良好な環境が保全されている。今後も、同様の保全が不可欠である。

## 【特記事項】

三重県の志摩半島、英虞湾、五ヶ所湾での観察では、ホスト（ヒモイカリナマコ）が多数生息していても、有機質の多い底質に生息するホストには寄生せず、潮通しの良い有機質の少ない礫砂底に生息するホストに限定的に寄生する。また、本種はホストの外に出て底質中に生息する場合もある。

## 【引用文献】

愛知県, 2005. 沿岸生態系保全の考え方− 干潟生態系を中心として− .
福田　宏・木村昭一, 2012. ヒモイカリナマコツマミガイ, p. 63. in：日本ベントス学会（編）干潟の絶滅危惧動物図鑑 - 海岸ベントスのレッドデータブック, 285pp. 東海大学出版会, 秦野.

（木村昭一）